

2020年12月6日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 140 : 5~8

ルカによる福音書 11 : 4

「誘惑に遭わせないでください」

<主の祈りの後半>

イエスさまが弟子たち、そしてわたしたちに教えて下さった「主の祈り」のみ言葉を、毎週聞いています。「主の祈り」は、神さまに関する前半の祈りと、わたしたちのことを祈る後半の祈りに分けられます。後半部分は、ルカによる福音書では、11章3~4節になります。「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」

そして今日は、最後の「誘惑に遭わせないでください」のところ。わたしたちが普段祈っている「主の祈り」では「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈っている部分です。

<わたしたちの弱さのゆえに>

さて、わたしたちは、神さまに「罪の赦し」を頂いたら、本当は、もうこれ以上願うことはないように思います。神さまから離れ、絶望と滅びに向かっていたわたしたちのために、神さまはイエスさまを遣わして下さり、イエスさまがその命と引き換えに、わたしたちを救い出して下さいました。救いの御業は成し遂げられたのです。わたしたちは、罪と死から解放されている。もう、罪の奴隷ではなく、神さまの恵みのご支配の中に生かされている。永遠の命と、終わりの日にわたしたちも復活するという約束が与えられている。この恵みが知らされているのです。確かな約束が、神さまから与えられているのです。この約束を信じて、恵みに生かされて、終わりの日まで、神さまに委ねて、頼って、生きてゆけば良いのです。

しかしイエスさまは、主の祈りの最後に、こう祈ることを教えて下さいました。「わたしたちを誘惑にあわせないでください。」「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」。なぜなら、イエスさまは、わたしたちの弱さをよくご存じだからです。

わたしたちは、救いの知らせを聞いて、信じて、イエスさまと共に生きる恵みに与っています。信仰を与えられています。わたしたちの信仰とは、神さまの確かさに、神さまの誠実さに、神さまの真実に、信頼することです。救いの確かさは、わたしたちも気持ちの強さや、固い決意によるものではありません。神さまの確かさに、救いの根拠があるのです。信仰は、神さまから与えられたものです。

しかし、だからこそわたしたちは、わたしたちの不確かさのゆえに。わたしたちの不誠実さのゆえに。わたしたちの弱さのゆえに。時に、確信が揺らぎ、神さまから離れようとしてしまうことがあるのです。神さまの恵みを疑ってしまうことがあるのです。神さまを忘れてしまうことがあるのです。わたしたちは、とても、弱いのです。

だから、イエスさまは、「わたしたちを誘惑に遭わせないでください」との祈りを教えて下さったのです。

<誘惑との戦い>

「誘惑」というのは、わたしたちを神さまから引き離す力、罪に引き込む力のことです。神さまとの恵みの関係を妨げる、すべてのことを指すと考えて良いでしょう。「悪魔」もまた、神さまに背く力、敵対するものを意味しています。

わたしたちは、現実生きていく上で、色々な誘惑に遭います。信仰の歩みのつまずきとなる、さまざまな出来事を体験します。

イエスさまを信じる者は、信じる者になったら、もう生涯安泰とか、迷うことがないとか、何も苦勞をしなくていいとか、心穏やかに、元気に過ごし、幸運が続く…ということは決してありません。生きる上での苦勞や困難は、相変わらずたくさんあります。むしろ、イエスさまを信じる者になったことによって、これまでにない苦しみを受けることすらあります。神さまに逆らう者の反発に遭う。神さまの御心に従って生きるゆえに、世の中において損をしたり、犠牲を払ったり、困難を担うことがある。聖書はそうはっきりと告げているのです。

では、イエスさまを信じて何の良いことがあるのか、と世の人は問うかも知れません。

しかしわたしたちは、はっきりと答えることが出来るのです。

造り主である神さまを知っていること。神さまに愛されていること、赦されていることを知っていること。憐れみ深い神さまが、すべての支配者である知っていること。この、生きておられる神さまの子どもとされて、神さまの愛と恵みのうちに、神さまを信頼して、神さまと共に生きる者とされていること。これが、わたしの幸いです。神さまは裏切ること、見捨てることもありません。御自分を低くし、身をかがめ、わたしのために御子の命さえ与えて下さるお方です。この方が、共にいて下さること。わたしの神であること。それが、わたしたちの最も大きな幸いです。そう、答えることが出来るのです。

わたしたちが毎日生活し、生きて行くこの世の中においては、嬉しいこと、楽しいこともあれば、さまざまな心の思い悩み、体の痛み苦しみ、苦勞や、困難や、悲しみもあります。何も起こらない、ということはありません。

しかしその中であって、神さまがいつも必ず共にいて下さること。導いて下さること。必要なものを備えてくださり、祈り合い、支え合う兄弟姉妹を与えてくださり、歩むべき道を備えていて下さること。苦しみや困難があったとしても、それによって、ますます神さまへの信頼を増し加えて下さること。自分が求めていた喜びや解決よりも、より大きな恵みを与

え、神さまと共に生きる、まことの喜び、まことの幸いを与えて下さること。神さまは、そのことを約束して下さいます。

このことを信頼して、すべてをお委ねするなら、神さまによって、わたしたちはあらゆる誘惑に抵抗して、いつも神さまの恵みの中にいることを忘れず、世の困難や苦しみに絶望せず、耐え忍んでいく力を、神さまから頂くことが出来るのです。

それなのに。わたしたちは自分の弱さのゆえに、現実に迫り来るあらゆることに圧倒されて、目を塞がれて、耳を塞がれて、神さまの恵みを見つめることが出来なくなってしまいます。神さまはずっと近くにおられるのに、ずっと恵みを与えて下さっているのに、自ら、神さまの恵みに覆いをかけてしまうのです。そして罪に近づこうとするのです。

だから、イエスさまは、こう祈るようと教えて下さいました。「わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」神さま、あなたから遠ざかろうとさせるあらゆることから、あなたの恵みを疑わせるあらゆることから、感謝を忘れさせるあらゆることから、わたしたちを守って下さい。

罪を赦されたわたしたちには、なおこの祈りが必要なのです。この、自分の弱さを認める祈りが、神さまの恵みに留まらせて下さいと願う祈りが、わたしたちには必要なのです。

<誘惑、試練、悪魔>

わたしたちは、自分が神さまの恵みが感じられなくなる時は、特に苦しみや困難の中に在る時だ、と思うかも知れません。わたしたちが、神さまが十分な恵みを与えて下さっていると信じられなくなるのは、経済的な貧困や、重い病気や、家族の問題がある時、仕事がうまくいかない時、人間関係で悩んでいる時、大きな災害や、悲しみの時などかも知れません。

わたしたちは「試みにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈る時、こういう災いを遠ざけて下さい。悪いことが起こらないように！恐ろしいことが襲ってこないように！わたしを苦しめる出来事が起こらないように！と、そういう気持ちで祈っているかも知れません。

しかし、誘惑は、ただわたしたちを苦しめる出来事とは限りません。宗教改革者のルターは、このような外からくる誘惑には、左からのものと、右からのものがある、と言いました。

まず左からとは、先ほど言ったような、貧困、重い病、人間関係、仕事の悩みなどの苦しみや痛みや困難です。これは、神さまの恵みが足りないように思わせます。神さまが憐れみ深い方であること、愛して下さいることを、疑わせるようになります。神さまは、わたしをこんな目に遭わせてどうしようというのか。わたしの苦しみをご存じないのか。悲しみを与えて絶望させようというのか。そんな風に思わせるのです。

しかし、そんなはずはありません。わたしたちは、イエスさまの十字架を見つめなければなりません。わたしの苦しみを、悲しみを、絶望を担うために、神の御子は十字架に架かり、血を流し、叫ばれ、絶望を叫んで下さったのです。わたしたちの最も深い絶望を、イエスさまがすべて背負って下さったのです。わたしを底の底から、支えて下さっているのです。

わたしたちは、苦しみの中にある時には、それでも今なお、十分に注がれている神さまの

恵みを見失うことがないように。今この時も、神さまの愛と憐れみによって生かされ、支えられ、また守られていることに気付くことが出来るように。神さまの深いご配慮の中を歩んでいると信じる事が出来るように、祈らなければなりません。

一方、ルターが言った右からの誘惑とは、これと反対に、世において満たされていることによる誘惑です。経済的に余裕があり、健康に恵まれ、人々に認められ、何不自由ないことが、わたしたちを神さまから引き離す誘惑となります。困難なことは何一つない。日々の生活に満足し、人もうらやむような人生を送っている。このとき人は、自分が生きるために、神さまの恵みが、助けが必要である、ということを忘れてしまいます。切実さを失います。そして、与えられているものが、神さまからの贈り者であるという、感謝の心を忘れず。それらを当たり前のように受け取り、むしろ自分がそのように恵まれていることが当然だと思ふようになります。

心地よさには、恐ろしい誘惑があるのです。このことに対しても、わたしたちは目を覚ましていなければなりません。神さまから遠ざけようとする誘惑があることに気づき、鈍くなる心に用心し、祈りによって、感謝を忘れないように、神さまを見失わないようにしなければならぬのです。

そして、さらに誘惑は、外からだけではありません。深刻なのは、自分の内側からの誘惑です。わたしたちは気を抜くと、自分を支配しているのが神さまであることを忘れ、神さまの声を聞かずに、自分の声に耳を傾けようとしてしまいます。自分の願いのために生きようとし、神さまに自分の願いを叶えさせようとし、そしてまた、神さまの御心に逆らい、罪をおかすのです。

わたしたちは、罪を赦されなければ、神さまの御前に出ることが出来ない者であったこと。イエスさまの十字架によってしか、赦されることの出来ない、深刻な罪に捕らわれていたことを、忘れてはいけません。

イエスさまはわたしたちの罪を完全に贖って下さいました。しかしそれは、わたしたちがその時点で完全な者になったことを意味するものではありません。わたしたちは罪人でありながら、イエスさまによって、ただ一方的に赦されたのです。わたしたちの内にはなお、罪を赦された後も、罪による葛藤や、迷いや、弱さがあるのです。

ですから、わたしたちは、イエスさまによる「あなたの罪は赦された」との宣言を繰り返し聞かなければなりません。そして、自分で立って歩んでいると勘違いしないこと。日々、罪の赦しがなければ、神さまの導きが無ければ、新たにされなければ、神さまに従うことが出来ない者であること。このことを覚え、祈り続ける必要があるのです。

「わたしたちの罪を赦してください。『そして』わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」この祈りが必要なのです。

そして、最後に。世には悪魔の力が存在しています。神さまに敵対する者。神さまから引き離そうとする力が、確かに世には存在しているのです。

わたしたちは、これに祈りによってしか、抵抗することは出来ません。自分で悪魔と戦ったり、決闘したりして、勝てる見込みはまったくありません。悪魔の力をみくびってはなりません。自分が強いと、自惚れてはなりません。

しかし、この悪魔の誘惑には、わたしたちより先にイエスさまが遭い、戦い、既に勝利されていることが、聖書には記されています。ルカによる福音書では4章のところで、イエスさまが霊によって導かれ、荒野で悪魔の誘惑に遭われ、そして勝利されたことが語られています。悪魔との戦いは、すでにイエスさまによって決着が付いているのです。

ですから、わたしたちはこの祈りを、イエスさまの勝利のもとで、希望を持って、祈ることが出来ます。イエスさまは悪魔に勝利され、十字架の死と、復活によって栄光をうけられ、今や、天も地も治める権能をもって、わたしたちを支配しておられます。この方の許で、悪魔はこの世で最後にあがくように、弱いわたしたちを見つけ、弱さに付け込み、神さまから引き離そうと働きかけます。しかし、たとえわたしたちが悪魔に揺り動かされようとも、仮に倒れてしまおうとも、勝利なさったイエスさまが、わたしたちを捕らえていて下さいます。すでに勝利なさっているイエスさまが、必ずわたしたちを立ち上がらせて下さいます。わたしたちは、すでにイエスさまに結ばれて、イエスさまのものとされているからです。そして、終わりの日に、このイエスさまの勝利は完全なものとなるのです。

わたしたちは、自分の力に依り頼む限りは、この外からの、内からの、悪魔からの、あらゆる誘惑に抵抗することは出来ません。打ち勝つための何の力も、強さ也没有ありません。

しかし、父なる神さまに助けを求めて、イエスさまの御許で祈る時。自分の弱さを認め、力のなさを認め、神さまに助けを求めて依り頼む時。神さまから引き離そうとする力は、もう祈ったその時から力を失い始めるのです。わたしたちが心を神さまに向け、神さまに救いを求め、神さまの許に逃れていくならば、誘惑がわたしたちに対して力を発揮する場は、どこにもなくなるのです。だから、祈るのです。

わたしたちを誘惑に遭わせないでください！神さま、あなたがわたしの信仰を守ってください！わたしの手が弱っても、あなたの御手はわたしを離さないでください！

<イエスさまの祈り>

わたしたちは、最後にイエスさまの一番弟子、ペトロのことを思い起こしましょう。

ペトロは、イエスさまが神の子である、救い主であると告白し、イエスさまに従ってきました。しかし、イエスさまは、ペトロの弱さを見抜いておられました。十字架に架かれる前に、イエスさまはペトロに言われたのです。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」するとシモンは、「主よ、御一緒になれば、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。イエスは言われた。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

イエスさまはすべてご存知でした。ペトロのイエスさまを思う気持ちも、熱心な心も、真剣さも、その覚悟も。しかしまた、サタンに打ち勝つことが出来ない弱さも、もろさも、すべてご存知だったのです。

しかしだからこそ、イエスさまはペトロのために祈って下さいました。「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」あなたはサタンに試される。あなたはサタンの誘惑に負ける。しかし、わたしが祈った。わたしがあなたを救う。だから、あなたが信仰を無くすことはない。わたしがあなたの信仰を守る。あなたはやがて立ち直る。そしたら、こんどはあなたが兄弟を力づけなさい。兄弟のために祈ってあげなさい。

人間の弱さをご存知のお方が、悪魔に勝利されたお方が、ご自分の命によってわたしたちを救って下さったお方が、祈っていて下さいます。わたしたちと共にいて、倒れても立ち上がらせて下さいます。誘惑に打ち負かされないように守って下さいます。やがて立ち上がり、兄弟と共に歩む未来の姿まで、イエスさまは見つめて下さっています。これは、イエスさまが誘惑から、サタンから、わたしたちを守って下さるという、確かな約束です。

だから、イエスさまはこの祈りを教えて下さったのです。「わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」わたしたちは自分の弱さを認め、神さまのもとに逃れましょう。自分の力ではなく、神さまの力によって立ち、イエスさまの祈りに支えられて歩んで行きましょう。「わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」弱いわたしが揺らがないようにお守り下さい。あなたの恵みに留まらせて下さい。この祈りを、祈り続けましょう。

そして、祈りによって、わたしたちが神さまの恵みを見つめることが出来た時、神さまによって耐え忍ぶ力が与えられた時、わたしたちは、ますます神さまの恵みと愛を、信じる事が出来るようになるのです。

こうして、苦しみや悩み、弱さの底から、イエスさまに守られ、立ち上がらされ、強められたわたしたちは、一方で、イエスさまを知らない人が、どれだけ深い絶望を感じているかを思います。祈ることを知らない人が、どれだけ無力さに打ちのめされ、疲れ果てているかを思います。自分の力に依り頼む人が、自分を守るためにどれだけ必死かを思います。わたしたちは、その人々ためにも祈りたいのです。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

わたしたちは、すべての人が神さまの恵みを知る日を待ち望みます。救いの完成を、待ち望み、祈り求めます。イエスさまが再び来られることを待ち望むアドベントの信仰に、わたしたちは生きていきます。そして「御名が崇められますように。御国が来ますように」との祈りが再び始まるのです。

主に祈りつつ、守られつつ、希望を持ちつつ、わたしたちは「主の祈り」を心から祈り続けていきたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

イエスさまが、わたしたちの主の祈りを与えて下さり、あなたを父と親しく呼んで、祈り求めること、恵みを見つめることを教えて下さいました。心から感謝いたします。

わたしたちは、苦しみがあればあなたの恵みを見失い、また満たされていればあなたへの感謝を忘れます。罪を赦されていながら、いつも自分中心の思いに引き戻され、また悪魔の力に抵抗すること弱く、自分の足で立つことが出来ません。

わたしたちの弱さを、罪を、今日も赦してください。そしてどうかあなたが、わたしたちを守っていて下さい。あなたの勝利の内に、わたしたちを置いていて下さい。あなたの恵みにずっと留まらせて下さい。この困難な世の中で、あなたの恵みとご支配を、しっかりと見つけさせて下さい。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

このアドベントの時、父なる神さまに心に向けて、罪の赦しのために来て下さり、そして今「主の祈り」を祈りつつ生きる恵みを与えて下さった、イエスさまを覚えて、神の国を待ち望みつつ、歩むことが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン